

2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月12日

上場会社名 一正蒲鉾株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2904 URL https://www.ichimasa.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 野崎 正博
 社長執行役員
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 高島 正樹 (TEL) 025-270-7111
 経営企画部長
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第3四半期の連結業績(2022年7月1日~2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	25,747	2.8	89	△89.4	125	△85.7	174	△73.9
2022年6月期第3四半期	25,054	—	842	△56.9	883	△55.3	669	△55.9

(注) 包括利益 2023年6月期第3四半期 51百万円(△89.3%) 2022年6月期第3四半期 477百万円(△73.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第3四半期	9.51	—
2022年6月期第3四半期	36.39	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年6月期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年6月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高の対前年四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第3四半期	30,778	13,691	44.5
2022年6月期	25,296	13,862	54.8

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 13,691百万円 2022年6月期 13,862百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2023年6月期	—	0.00	—		
2023年6月期(予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,000	7.5	500	△8.4	500	△19.8	470	△16.9	25.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 社(社名) 、除外 社(社名)

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年6月期3Q	18,590,000株	2022年6月期	18,590,000株
2023年6月期3Q	212,088株	2022年6月期	212,088株
2023年6月期3Q	18,377,912株	2022年6月期3Q	18,403,012株

(注) 当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、期末自己株式数については、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式(2023年6月期3Q147,000株、2022年6月期147,000株)が含まれています。また、期中平均株式数(四半期累計)の計算において控除する自己株式については、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式(2023年6月期3Q147,000株、2022年6月期3Q121,900株)を含めています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年7月1日～2023年3月31日）におけるわが国経済は、2022年春以降、ウィズコロナの下、社会経済活動の正常化が進みつつあり、行動制限や入国制限が大きく緩和されたことによりサービス消費を中心に回復の動きがみられ、景気は持ち直しの動きを見せました。

しかしながら、ウクライナ侵攻の長期化、円安や鳥インフルエンザの蔓延等により、すり身をはじめとした原材料価格や電気ガス等エネルギー価格など多くのコストが想定をはるかに超えて上昇しています。また、当社を含めた多くの企業がコスト上昇分を補填するために価格改定を実施し、様々な物品の価格が上昇していることから、消費者の節約志向は強まっており、当社グループを取り巻く経営環境はかつてない厳しさとなっています。

このような状況のもと、当社グループでは、“ICHIMASA30ビジョン”（2045年度のありたい姿）を目指し、2021年7月から2026年6月までの第二次中期経営計画の2年目を迎え、“国内外のマーケットへの果敢なチャレンジを通じ、事業の成長力・収益力基盤を確立し、ファーストステージ「成長軌道」を確実に実現する。”を基本方針として経営課題に取り組んでいます。

また、地球環境の維持は企業活動の持続的な成長・発展のためには不可欠であり、「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」の達成を目指し、当社グループもステークホルダーの皆さまと協働しながらサステナブルな課題の解決に取り組んでいます。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高257億47百万円（前年同四半期比6億92百万円（2.8%）の増加）、営業利益は89百万円（前年同四半期比7億52百万円（89.4%）の減少）、経常利益は1億25百万円（前年同四半期比7億57百万円（85.7%）の減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億74百万円（前年同四半期比4億94百万円（73.9%）の減少）となりました。

セグメントの状況は、次のとおりです。

(水産練製品・惣菜事業)

売上は、2022年9月1日、2023年3月1日納品分よりお取引先さまの理解と協力のもと価格改定を行い、販売数量は前年同四半期を下回ったものの、価格改定による売価上昇の効果もあり前年同四半期を上回りました。

年末のおせち商品は、主原料・副材料のすべてが国産の「純」シリーズの伊達巻や蒲鉾の売上が伸長しました。

利益は、主原料であるすり身をはじめとした原材料価格が高止まりしていることや、鳥インフルエンザの影響による卵価の高騰、ウクライナ情勢や急激な円安などによる影響でエネルギーコストや油脂類、包装資材といった様々なコストも上昇していることから、前年同四半期を下回る結果となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は222億34百万円（前年同四半期比7億87百万円（3.7%）の増加）、セグメント損失（営業損失）は1億70百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）2億78百万円）となりました。

(きのこ事業)

野菜市況は前年を上回り、きのこ市況に関しても前年を上回る推移でしたが、舞茸は他社増産の影響による供給過多状態もあり軟調な推移となりました。

生産は、安定栽培や生産の効率化、品質管理体制の強化に努めるとともに、販売は、大容量商品や新発売の「希なり」の提案、外食・業務用筋への提案拡大により、消費喚起・販売強化に努めました。

以上の結果、当セグメントの売上高は31億81百万円（前年同四半期比56百万円（1.8%）の減少）、セグメント利益（営業利益）は1億96百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）5億29百万円）となりました。

(運送事業・倉庫事業)

運送事業は、主に気象影響による輸入青果物の取扱数量の減少及び定期輸送便の一部終了により、売上は前年同四半期を下回りました。また、コスト削減へ向けた取組みによる固定費の縮減を行ってきましたが、売上の減少影響により、利益は前年同四半期を下回る結果となりました。

倉庫事業は、荷主が価格高騰の影響を抑えるために原材料等を前倒しで購入、寄託したことから、前期を上回る高い在庫水準で推移したものの、荷動きが停滞したことにより入出庫料が減少したため、売上は前年同四

半期を下回りました。一方、収益性改善に向けた庫内管理の最適化を着実に推し進めた結果、利益では前年同四半期を上回りました。

以上の結果、報告セグメントに含まれないその他の売上高は3億31百万円（前年同四半期比37百万円（10.3%）の減少）、セグメント利益（営業利益）は60百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）24百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は114億45百万円（前連結会計年度末比23億32百万円の増加）となりました。これは主に原材料及び貯蔵品並びに現金及び預金の増加によるものです。

② 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は193億32百万円（前連結会計年度末比31億49百万円の増加）となりました。これは主に有形固定資産の減価償却の進行の一方、本社第二工場の建物及び構築物並びにリース資産の増加によるものです。

③ 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は109億27百万円（前連結会計年度末比25億62百万円の増加）となりました。これは主に支払手形及び買掛金の減少の一方、短期借入金の増加によるものです。

④ 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は61億58百万円（前連結会計年度末比30億90百万円の増加）となりました。これは主に長期借入金及びその他の増加によるものです。

⑤ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上の一方、配当金の支払いにより136億91百万円（前連結会計年度末比1億71百万円の減少）となり、自己資本比率は本社第二工場建設に伴い総資産が増加したため前連結会計年度末の54.8%から44.5%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月期の通期の連結業績予想については、2023年2月10日に公表した業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,318,833	3,008,478
売掛金	2,884,656	3,194,935
商品及び製品	888,761	728,705
仕掛品	531,453	473,658
原材料及び貯蔵品	2,289,432	3,380,973
その他	199,892	659,089
貸倒引当金	△559	△535
流動資産合計	9,112,470	11,445,305
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,324,171	7,480,531
機械装置及び運搬具(純額)	2,860,568	2,723,848
工具、器具及び備品(純額)	167,085	153,620
土地	3,179,344	3,179,344
リース資産(純額)	179,705	1,759,299
建設仮勘定	2,232,915	962,504
有形固定資産合計	12,943,791	16,259,148
無形固定資産	434,986	402,794
投資その他の資産		
投資有価証券	2,466,889	2,130,171
その他	362,424	565,089
貸倒引当金	△24,500	△24,500
投資その他の資産合計	2,804,814	2,670,760
固定資産合計	16,183,592	19,332,703
資産合計	25,296,062	30,778,008
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,984,765	1,554,346
短期借入金	2,723,152	5,712,894
未払法人税等	176,906	51,185
賞与引当金	80,828	326,214
役員賞与引当金	18,672	—
未払金及び未払費用	1,860,553	1,548,297
その他	1,519,521	1,734,367
流動負債合計	8,364,399	10,927,304
固定負債		
社債	200,000	100,000
長期借入金	2,376,335	3,916,954
役員退職慰労引当金	36,988	38,425
役員株式給付引当金	97,280	110,295
繰延税金負債	9,177	8,512
その他	348,888	1,984,656
固定負債合計	3,068,671	6,158,843
負債合計	11,433,070	17,086,148

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	940,000	940,000
資本剰余金	650,000	650,000
利益剰余金	11,320,455	11,272,947
自己株式	△166,135	△166,135
株主資本合計	12,744,320	12,696,811
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,103,143	964,788
為替換算調整勘定	15,528	30,259
その他の包括利益累計額合計	1,118,672	995,048
純資産合計	13,862,992	13,691,860
負債純資産合計	25,296,062	30,778,008

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2023年3月31日)
売上高	25,054,881	25,747,642
売上原価	20,080,669	21,361,311
売上総利益	4,974,212	4,386,330
販売費及び一般管理費	4,132,005	4,296,811
営業利益	842,207	89,519
営業外収益		
受取利息	792	1,004
受取配当金	17,903	15,397
受取賃貸料	13,211	8,602
受取手数料	20,474	10,833
売電収入	12,289	12,710
有価証券償還益	—	8,530
持分法による投資利益	9,004	5,396
雑収入	16,062	18,029
営業外収益合計	89,738	80,504
営業外費用		
支払利息	18,147	26,293
投資有価証券評価損	712	—
減価償却費	8,091	8,091
支払手数料	21,200	9,500
雑損失	253	193
営業外費用合計	48,403	44,078
経常利益	883,541	125,945
特別利益		
固定資産売却益	2,485	1,449
投資有価証券売却益	132,170	174,321
補助金収入	—	7,888
特別利益合計	134,656	183,659
特別損失		
固定資産除却損	443	2,654
生産拠点統合費用	—	14,792
特別損失合計	443	17,447
税金等調整前四半期純利益	1,017,754	292,156
法人税、住民税及び事業税	260,501	118,556
法人税等調整額	87,597	△1,190
法人税等合計	348,099	117,366
四半期純利益	669,654	174,790
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	669,654	174,790

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	669,654	174,790
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△207,840	△138,354
持分法適用会社に対する持分相当額	16,074	14,730
その他の包括利益合計	△191,766	△123,624
四半期包括利益	477,888	51,166
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	477,888	51,166
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	水産 練製品・ 惣菜事業	きのこ事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	21,447,412	3,238,412	24,685,825	369,055	25,054,881	—	25,054,881
その他収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	21,447,412	3,238,412	24,685,825	369,055	25,054,881	—	25,054,881
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	350,878	350,878	△350,878	—
計	21,447,412	3,238,412	24,685,825	719,934	25,405,760	△350,878	25,054,881
セグメント利益	278,572	529,900	808,472	24,413	832,885	9,321	842,207

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない運送事業、倉庫事業セグメントです。

2 セグメント利益の調整額9,321千円は、主にセグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	水産 練製品・ 惣菜事業	きのこ事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	22,234,958	3,181,612	25,416,571	331,070	25,747,642	—	25,747,642
その他収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	22,234,958	3,181,612	25,416,571	331,070	25,747,642	—	25,747,642
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	419,278	419,278	△419,278	—
計	22,234,958	3,181,612	25,416,571	750,349	26,166,920	△419,278	25,747,642
セグメント利益又は損失 (△)	△170,929	196,292	25,363	60,933	86,296	3,222	89,519

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない運送事業、倉庫事業セグメントです。
- 2 第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるために、全社費用の配賦基準を見直し、事業セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っています。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しています。
- 3 セグメント利益の調整額3,222千円は、主にセグメント間取引消去です。
- 4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。